

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第28週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,555人（定点あたり44.7）で、前週比96%とほぼ横ばいであった。

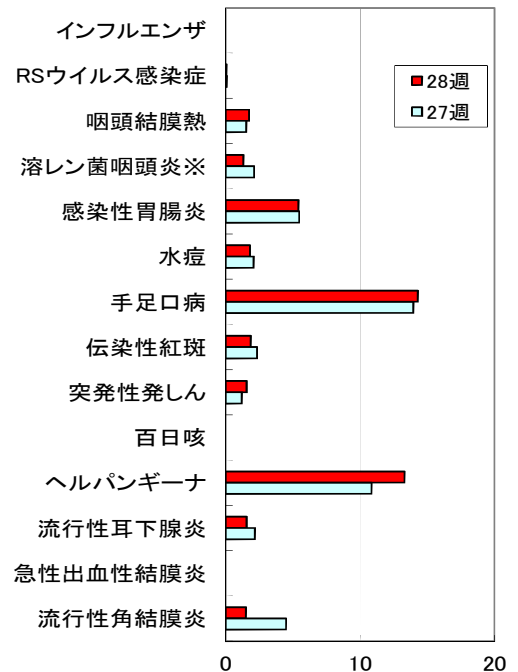
前週に比べ増加した主な疾患はヘルパンギーナで、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎とRSウイルス感染症であった。

ヘルパンギーナの報告数は479人（13.3）で前週比123%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（4.7）の約2.8倍であった。県全体で警報レベルを超えており、小林（36.7）、日南（18.7）、中央（14.0）保健所からの報告が多かった。年齢別では1歳から4歳で全体の約8割を占めた。

手足口病の報告数は514人（14.3）で前週比102%とほぼ横ばいであったが、例年同時期の定点あたり平均値（4.2）の約3.4倍と多い。県全体で警報レベルを超えており、延岡（22.0）、宮崎市（16.2）、日向（15.0）保健所からの報告が多かった。年齢別では6ヶ月から3歳で全体の約8割を占めた。

無菌性髄膜炎2人が宮崎市保健所から報告された。患者は0ヶ月の男児であった。

《前週との比較》



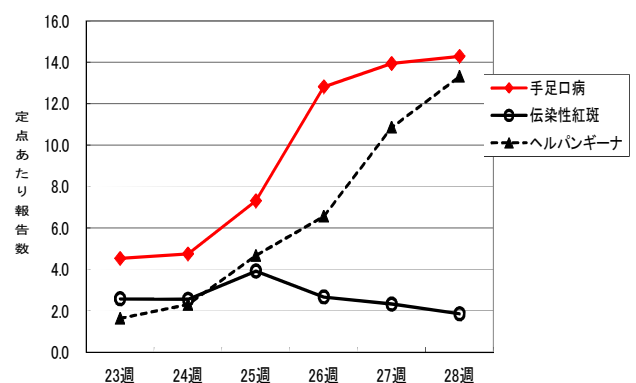
《定点あたり報告数》

※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報開始基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(16.2)、ヘルパンギーナ(12.4)
都城	手足口病(11.3)、ヘルパンギーナ(13.2)
延岡	咽頭結膜熱(4.0)、手足口病(22.0)、伝染性紅斑(4.8)、ヘルパンギーナ(8.8)
日南	咽頭結膜熱(3.0)、手足口病(10.3)、伝染性紅斑(2.3)、ヘルパンギーナ(18.7)
小林	手足口病(11.7)、ヘルパンギーナ(36.7)
高鍋	手足口病(12.8)、伝染性紅斑(2.0)、ヘルパンギーナ(9.0)
高千穂	手足口病(6.0)
日向	咽頭結膜熱(3.8)、手足口病(15.0)、伝染性紅斑(2.3)、ヘルパンギーナ(6.3)
中央	手足口病(13.0)、ヘルパンギーナ(14.0)

流行警報開始基準値超過疾患推移



□ 疾患別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	1.8	延岡(4.0)、日向(3.8)、 日南(3.0)	1歳～5歳で全体の約8割を占めた。
手足口病	5	14.3	延岡(22.0)、宮崎市(16.2)、 日向(15.0)、中央(13.0)、 高鍋(12.8)、小林(11.7)、 都城(11.3)、日南(10.3)、 高千穂(6.0)	6ヶ月～3歳で全体の約8割を占めた。
伝染性紅斑	2	1.9	延岡(4.8)、日南・日向(各2.3)、 高鍋(2.0)	4歳～5歳で全体の約4割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	13.3	小林(36.7)、日南(18.7)、 中央(14.0)、都城(13.2)、 宮崎市(12.4)、高鍋(9.0)、 延岡(8.8)、日向(6.3)	1歳～4歳で全体の約8割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症：報告なし。
- 2 類感染症：結核 5 例が宮崎市（3 例）、日南（2 例）保健所から報告された。
 《宮崎市保健所》・50 歳代の男性で肺結核。発熱、呼吸困難がみられた。
 ・30 歳代の男性で無症状病原体保有者。
 ・50 歳代の男性で肺結核。
 《日南保健所》・70 歳代の男性で肺結核。呼吸困難がみられた。
 ・80 歳代の男性で粟粒結核。発熱、呼吸困難がみられた。
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3 例が都城保健所から報告された。
 ・30 歳代の男性で無症状病原体保有者。原因菌は O26（VT1、VT2 産生）。
 ・30 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌は O91（VT1 産生）。
 ・11 ヶ月の女児で水様性下痢がみられた。原因菌は O15（VT 産生）。
- 4 類感染症：報告なし。
- 5 類感染症：ウイルス性肝炎 1 例が宮崎市保健所から報告された。30 歳代の男性で B 型。全身倦怠感、褐色尿、発熱、肝機能異常、黄疸がみられた。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ ウイルス（平成 23 年 7 月 5 日～平成 23 年 7 月 19 日までに検出）

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ライノウイルス	1M	女	6.25	ウイルス感染症・百日咳疑い 40℃, 下気道炎（気管支炎）	咽頭ぬぐい液	7.7

○下気道炎（気管支炎）の乳児からライノウイルス遺伝子が検出された。ライノウイルスは、普通感冒の代表的ウイルスとして知られているが、喘息の悪化をもたらすことがあり、幼児や高齢者、免疫不全者に下気道炎を起こすこともある。また、ライノウイルスは数百種類以上の血清型があるといわれ、このウイルスに対する抵抗力をつけることは難しいとされている。

□ 細菌（平成 23 年 7 月 5 日～平成 23 年 7 月 19 日までに検出）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
腸管出血性大腸菌(O146:HNM VT2)	30代前半	女	2011.6.10	無症状	便	2011.6.20
A群溶血レンサ球菌(Streptococcus pyogenes)	50代前半	女	2011.6.5	ショック、急性呼吸窮迫症候群、DIC、全身性紅斑性発疹、中枢神経症状	血液	2011.6.7
サルモネラ属菌血清型不明(O4:i:-)	0～4	女	2011.6.22		便	2011.7.12
Salmonella Thompson(O7:k:1,5)	5～9	男	2011.6.27	発熱(38.0℃)、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	2011.7.6
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	男	2011.6.29	無症状	便	2011.7.8
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	女	2011.6.29	無症状	便	2011.7.8
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	20代後半	女	2011.6.30	無症状	便	2011.7.8
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	女	2011.6.30	無症状	便	2011.7.11
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1,2)	0～4	男	2011.7.1	O157感染性腸炎	便	2011.7.9
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	30代前半	男	2011.7.1	無症状	便	2011.7.8
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	女	2011.7.1	無症状	便	2011.7.8
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5～9	男	2011.7.1	無症状	便	2011.7.9
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	女	2011.7.2	無症状	便	2011.7.11
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1,2)	0～4	男	2011.6.30	下痢	便	2011.7.15
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	男	2011.7.7	無症状(服薬後)	便	2011.7.19
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	女	2011.6.22	水様性下痢、発熱	便	2011.7.11
Salmonella Manhattan(O8(O6):d:1,5)	40代後半	女	2011.7.11		便	2011.7.19

○日南保健所および都城保健所管内で腸管出血性大腸菌026の集団発生があった。前者で検出された026はVT1産生、後者ではVT1, VT2両方が検出された。026感染では無症状病原体保有者も多く、保育所、幼稚園などでの集団発生に注意を要する。

■ 全国第 27 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 25.3 で、前週比 113%と増加した。今週増加した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザと水痘であった。

ヘルパンギーナの報告数は 10,708 人(3.4)で、前週比 153%と増加した。宮崎県(10.9)、徳島県(8.4)、熊本県(8.1)からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳で全体の約7割を占めた。

手足口病の報告数は 30,506 人(9.7)で、前週比 135%と増加した。佐賀県(42.3)、福岡県(41.0)、熊本県(32.7)からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳で全体の約7割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 381 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 4 例、腸管出血性大腸菌感染症 102 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 1 例、オウム病 1 例、つつが虫病 1 例、デング熱 3 例、日本紅斑熱 2 例、ブルセラ症 1 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 16 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 13 例、ウイルス性肝炎 4 例、急性脳炎 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 例、後天性免疫不全症候群 21 例、梅毒 11 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風疹 7 例、麻疹 13 例

■月報告対象疾患の発生動向 <6月>

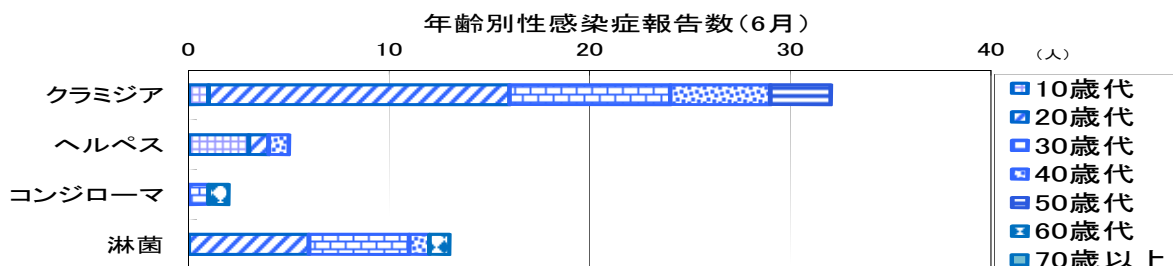
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は52人（4.0）で、前月比121%と増加した。また、昨年6月（2.3）の約1.7倍と多かった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数32人（2.5）で、前月の約1.3倍、前年の約2倍であった。日向（9.0）、延岡（3.5）保健所からの報告が多く、男性19人・女性13人で、20歳代が全体の約半数を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人（0.38）で、前月の約6割、前年の約1.7倍であった。男性1人・女性4人で、10歳代が3人、20歳代・40歳代が各1人であった。
- 尖圭コンジローマ：報告数2人（0.15）で、前月の2倍、前年と同数であった。30歳代と60歳代の男性であった。
- 淋菌感染症：報告数13人（1.0）で、前月・前年の約1.4倍であった。男性10人、女性3人で、20歳代が全体の約半数、30歳代が約4割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：966

定点医療機関からの報告総数は4,327人（4.5）で、前月比109%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,362人（2.5）で前月比116%、性器ヘルペスウイルス感染症692人（0.72）で前月比100%、尖圭コンジローマ455人（0.47）で前月比104%、淋菌感染症818人（0.85）で前月比102%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は32人（4.6）で前月比84%と減少した。また昨年6月（6.4）の71%と少なかった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数28人（4.0）で、前月とほぼ同数、前年の約9割であった。宮崎市（9.0）、延岡（7.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約半数を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数3人（0.43）で、前月の約3割、前年の約2割であった。宮崎市（2.0）、高鍋（1.0）保健所からの報告であった。5歳未満が2人、60歳代が1人であった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数は1人（0.14）で70歳以上の女性であった。
- 薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：468

定点医療機関からの報告総数は2,495人（5.3）で、前月比99%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2,004人（4.3）で前月比101%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症455人（0.97）で前月比92%、薬剤耐性緑膿菌感染症35人（0.07）で前月比88%、薬剤耐性アシネトバクター感染症1人（0.0）であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2011年 第28週(07月11日～07月17日)

疾病名		第27週	第28週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	3	2		1	1						
	定点あたり	0.08	0.06	0.00	0.17	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	55	63	13	4	16	9	1	5		15	
	定点あたり	1.53	1.75	1.30	0.67	4.00	3.00	0.33	1.25	0.00	3.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	76	47	11	7	12	4	5	3	1	4	
	定点あたり	2.11	1.31	1.10	1.17	3.00	1.33	1.67	0.75	1.00	1.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	197	195	27	42	7	15	41	19	4	34	6
	定点あたり	5.47	5.42	2.70	7.00	1.75	5.00	13.67	4.75	4.00	8.50	6.00
水痘	報告数	75	65	17	9	17	1	9	4	1	6	1
	定点あたり	2.08	1.81	1.70	1.50	4.25	0.33	3.00	1.00	1.00	1.50	1.00
手足口病	報告数	502	514	162	68	88	31	35	51	6	60	13
	定点あたり	13.94	14.28	16.20	11.33	22.00	10.33	11.67	12.75	6.00	15.00	13.00
伝染性紅斑	報告数	84	67	12	10	19	7	2	8		9	
	定点あたり	2.33	1.86	1.20	1.67	4.75	2.33	0.67	2.00	0.00	2.25	0.00
突発性発しん	報告数	43	56	15	15	3	6	1	9		4	3
	定点あたり	1.19	1.56	1.50	2.50	0.75	2.00	0.33	2.25	0.00	1.00	3.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	391	479	124	79	35	56	110	36		25	14
	定点あたり	10.86	13.31	12.40	13.17	8.75	18.67	36.67	9.00	0.00	6.25	14.00
流行性耳下腺炎	報告数	78	56	33	6	3	3	1	4	2	1	3
	定点あたり	2.17	1.56	3.30	1.00	0.75	1.00	0.33	1.00	2.00	0.25	3.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	27	9	6	2	1						
	定点あたり	4.50	1.50	2.00	1.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		2	2								
	定点あたり	0.00	0.29	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	2										
	定点あたり	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

* 第27週のマイコプラズマ肺炎の報告数に訂正がありました。

●全数把握対象疾患累積報告数(2011年第1週～28週)

2類感染症	結核	153例(5)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	37例(3)			
4類感染症	A型肝炎	1例	チクングニア熱	1例	つつが虫病
	日本紅斑熱	2例			2例
5類感染症	アメーバ赤痢	7例	ウイルス性肝炎	2例(1)	急性脳炎
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	髄膜炎菌性髄膜炎	2例	後天性免疫不全症候群
	梅毒	5例	破傷風	6例	風しん
	麻しん	1例			1例

●動物感染症累積報告数(2011年1週～28週)(参考)

指定感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	20例
-------	-------------------	-----